

# 「NPO法人 富山・イタズラ村・ 子ども遊ばせ隊」 通信

再生第10号

2016年3月1日発行



▲カンボジアでも皿回し、楽しそう（愛育園・藤本園長より）

## 【巻頭】 子育て支援としての「親子遊び」支援

理事長 早川 たかし

私は「子育て支援策の中に保護者や保育士・教師への『遊び支援』こそ大切」と考えている。「子育て支援」と呼ばれる施策は様々ある。「支援」には国家や自治体レベルで行う制度・法制作りや財政支援があれば、社会福祉法人やNPO法人が行う子育て現場での具体的な内容もある。「発達一四〇号」【特集】子育て支援の「これから」（ミネルヴァ書房 二〇一四年一〇月二五日）では、専門家による子育て支援についての論考が載っている。大豆生田啓友氏（玉川大学教授）の論文には、「家庭連携による保護者支援を中心に」というサブタイトルが付いている。しかし、この論文にすら「遊び支援」は見あたらない。勿論、他の論文にも「遊び支援」は見つけることができなかった。

私にはこのことが不思議でならない。特に乳幼児期、本人である「赤ちゃん」が一番望んでいるのだから「遊び」だからである。そしてその「遊び」を親は必要だと気づかないで、発達やしつけに目を奪われてしまっている。これでは本人たちの基本的欲求は満たされるべくもない。

私はこれまで、保護者向けの「遊びのワークショップ付き講演」を小学校のPTAや保育園・幼稚園・認定子ども園で行ってきた。講演テーマは「大人に必要な遊び力・子ども力」が大人が遊ばせ子どもは元気や「子ども遊び力が日本の子どもと家族を元気にする」などというもの。講演内容は、①日本の子どもは孤独感に耐えてくれないに生きている。（ユニセフの子どもの幸福度に関する調査によると日本では二九・八割の子どもが孤独感を感じている）②親と遊ぶことが大切（親が子どもと遊ぶようになる）、子どもがどれほど喜び元気になるか）

③子どもを簡単に「発達障害」と呼ばないで！（「発達障害」の原因は解明されていないのに脳の中核器官の障害と決めつけているが、オカシイのではないか）④抱っこやじゃれつき遊びをしたら親子関係が一気に変わる（私の「実践レポート」の事例から確実に分かる）など。講演の中に遊びのワークショップを交える。この「遊びのワークショップ」（皿回し遊び、『サンリの標本』、各種の不思議おもちゃ）には大きな意味がある。受講者である大人たち（若い親や保育士・教師たち）は遊ぶことを知らなかったり、日頃の忙しさの中で子どもと遊ぶことを忘れていたりする。しかし、ワークショップを通して、「遊び力」や「子ども力」を身につけることができる。そして、講演で私が話した内容や訴えたいことをからだを通して理解する。また、講演を企画していただいた主催者側に参考資料（A4・一〇枚程度）を印刷してもらおう。この資料の最後には講演の感想を書く用紙がある。感想は講演後すぐに書くのではなく、講演で学んだことを家で「実践」しての記録を書くことになっている。（講演後、私が説明し依頼する。）

私にとって頂いた感想文は、生き甲斐であり、宝物。NPOの活動を継続するためのエネルギーである。また、お母様方にとっても書くことは、日頃の育児や家族関係を見直す機会になる。講演でつかんだ「遊び力」を生かし、素敵な育児実践を披露されるお母様方も多く、これは私にとって大きな喜びであり学びになっている。

※以下は二〇一五年に私が行った講演の感想（約三百通の中から）の抜粋である。読了後、「遊び支援」という「支援」の必要性が理解して貰えれば有り難い。

## ★父と娘は抱き合って喜ぶ

内容の充実した講演で参加してよかったです。皿を買って家に帰ると、小学1年生の娘は興味を持ってやり始め15分くらいでできるようになりました。夜に父が帰ってきたので、娘は自慢げに見せようとしたのですが、どうしても上手く回らず悔しくて泣き出してしまいました。家族全員で応援して見守りました。焦りでなかなか成功せず、それでも真剣に回そうとする姿に感動しました。そして、30分後ようやく回すことができました。父と娘は抱き合って喜びました。今後も子どもと向き合って、子育てをがんばっていきたいと思いました。

## ★親子遊びのレッスンで胸がいっぱいに

大変心に残る講演をありがとうございました。一番心を揺さぶられたのは、子どもを「赤ちゃんに戻らせる」レッスンでした。ライトが消され、「今からみんな赤ちゃんになって良いよ」と先生が言われ、わが子が生まれたばかりの瞬間にタイムスリップしました。おっぱいをあげて、寝顔を1日中見ている飽きず、わが子を命のかたまりだなーと思って、幸せな気分だった時代を思い出しました。ずいぶんでかくなっただな。何も変わらないのに、最近の私はいつも子どもに怒ってばかりだな。いろんなことが頭を巡って胸がいっぱいになりました。子どもが赤ちゃんになって抱っこされる顔は本当に嬉しそうなお表情でした。



## ★お父さんが変わった！

講演会には主人も参加させていただきました。私や子どもよりも主人がとても変わりました。今までは、子どもの遊びにただ付き合っているだけ、見ているだけだったのが、一緒に笑い、楽しみ、みんなで遊べるようになりました。仕事上ほとんど家を留守にしているのですが、一緒に遊ぶ時間が多くなって、自然と私も子どもも笑顔でいる時間が多くなりました。たっぷり子どもと遊ぶように心がけるようになったら、子どもの方から、「ママがお片づけ終わってから遊ぼうね。」と私を気遣うようなことをしてくれるようになりました。今までは家事をしようとしても、すぐに「早くー」「こっちきてよ」とわざと家事をさせないように仕向けるようなことばかり言って私を困らせていましたが、不思議と子どもの方から家事をする時間を貰えるようになりました。

## ★主人が中級の皿が回せた！家庭での皿回しの効用

主人が中級の皿が回せるようになったので、初級も中級も買って帰りました。(略)中級が回せるようになった主人は子どもに自慢げに披露し、どちらが大人で子どもかわからない位でした。そういう経験ができたことで、子どもとの遊び方、子どもが遊びから得る喜びや学びを見つけることができました。最近では子どもが「お父さんと遊ぶの楽しい！」といて、私と遊んでくれません。私も負けずに遊びにどんどん参加していきたいです。私の実家に遊びに行ったときに、皿回しで遊んだら、じいちゃんもばあちゃんも遊びの虜になり、みんな遊びの虜でした。この皿回しをきっかけに遊びの輪が大きくなりました。今回は早川先生の講演を聴いて本当によかったです。このような機会を作ってくださった幼稚園にも感謝です。ありがとうございました。



## ★母に抱っこしてもらった記憶がない私が…娘にも

(略)抱きしめられた記憶がないのは、私は3人姉弟の一番上で、弟たちが手がかかる為、仕方なかったのだと思います。早川先生の講演を聞いて、私の娘との接し方にハッとさせられました。私は一番上の娘に対して、抱きしめるところか、「OO手伝って！」とか「OOして！」と下の子の世話を頼んだり、大人と同等に接し甘えさせていませんでした。(略)「おかあさん、ほくは今日まだ一回も抱っこされてないよ」(富田富士也・作)という言葉が娘の悲鳴のように感じ、涙が出そうになりました。娘はまだ5歳。たくさんたくさん甘えたい年齢のはずです。これからは娘をもっと抱きしめ、この先娘が困難にぶつかった時『お母さん苦しいよ！』と素直にうち明けて貰えるような親子関係を築きたいと思います。とても勉強になる講演会、ありがとうございました。

## お母さんたちの喜びの手記

### ★発達に悩んでばかり・・・自分を変えることから始めよう！

子どもの発達に悩みのある私にとって、「親が変われば（遊べば）子どもが変わる」という先生の言葉はとてもよい励みになりました。ふさぎ込んでばかりいないで、まず抱っこしよう！身体を動かして笑い合おう！と思えるようになりました。主人とは喧嘩も多かったけれど、一日に一回主人を笑わせるぞ！三人で笑おうと。悩むのは子どもが寝てから。発達の本を読んでばかりいても、子どもに寄り添い見つめていなければ意味がありませんね。機会があったら、また勉強して変わりたいです。

### ★発達障害ではないかと悩んでいたけれど 遊び仲間ができて劇的变化！

小学生1年生になったばかりの息子が、発達障害ではないかとわれ、涙の日々を過ごしました。(略) 息子を救ってくれたのは友達でした。友達と遊ぶという時間を作ってあげられず、家に閉じこめていたせいで、息子ののびのびとした感情を潰していたのだと思います。3年生になって、友達がどんどん(強引に?)来てくれるようになり劇的に変化しました。全てが動き出したのがわかりました。夢中になって遊ぶことが、子どもの人間形成にどれだけ大切かその時気付きました。

講演会では まだまだ育児を頭で考えていたのですが、単純に、手をつないで膝に乗せて話す、聞く、目を見る。これで良いのだと教わりました。これからの財産になりました。

追伸 私の弟(独身)が家に来る度に汗だくで遊んでくれます。

### ★私の育児バロメータは、「ぎゅーっ 足りてる?」

我が家では、下の子が生まれてから、年長のお兄ちゃんに「ぎゅーっ足りてる?」と聞くようにしています。すると、「たりてない!」といて、私の所へ飛び込んでくるので、その時は下の子に「今はお兄ちゃんの時間」、お兄ちゃんを抱きしめてあげます。しばらくすると満たされた顔で、自然に離れていきます。(略)



### ★友人の子どもが不登校になって考えたこと

先生のお話を聴いて、先生の本を読んで、あれを試してみたいとか、話しをしたい、と何人かの子とそのお母さんたちのことを思い浮かべました。この春入学し、しばらくして学校に行けなくなった子がいます。お母さんたちは目の前の大きな問題に思い悩んで、涙混じりで話しました。自分の息子と同一年で同じ幼稚園やプールで過ごしてきた子たちです。学校はちがっても他人事とは思えませんし、いつか自分たちも直面するかもしれません。そして、学校へ入学して一番変わったことは何かと考えると、それは、遊び時間が減ったことだと思います。(略・・・学校の中でも家庭でも遊び時間がなくなっている実態) これでは子どもの心の電池がきれて不登校になるのも当然だと思います。

我が家ではどんなことでも遊びになると考え実践しています。「せんとくものたたみだい」と3歳の息子が言いました。「あらお手伝いしてくれるの?ありがとう」と言いながら、息子の表情を見てハッとしました。息子はそれをお手伝いだとは思っているわけではないのです。「ママがやっていることを、ボクもやってみたい」だけなのです。(略)一緒にやっているうちに息子は洗濯物で遊び始めました。形の違うものでグループ分けしたり、積み上げたタオルの山を崩して笑ったりしているのです。「仕事だって一緒に楽しめば遊びになる」と気づきました。仕事や家事に一日の大半がとられる、何でも一緒に取り組んで、一緒に笑って、一緒に興奮して、一緒に遊ぶことを増やそう!先生のお話のことや、私の思いを、家族や悩んでいる両親、職場の人や友人、できるだけたくさんの人に伝えたいと思います。最後ですが、血回し先生の笑顔の輪がどんどん広がりますようにお祈りします。

### ★できないとかんしゃくを起こす息子が・・・

家に帰るといつもテレビゲームを始める息子(6歳)に、血を買って帰りました。何度やっても上手くいかず、回せるようになるまで2時間位はかかりました。もともと感情の激しい子ですが、泣きじゃくりながら、がんばっていました。回せるようになったときは晴れやかな顔をしていました。何でもすぐできないとかんしゃくを起こす彼ですが、何度も練習してやっとできるようになるんだと、体感してくれたのではないかと思います。(翌日、また回せなくなり、怒って棒を折ってしまいましたが、よい経験になったと思います。ありがとうございます。)

## ★小学校5年生になってもだっこが大好き！

我が家には小5の息子がいます。昔から甘えん坊です。夏休みに入ってから特に、私にくっついて来ます。「ママはオレの充電器なんだぜ。今日は3点充電だ。」といい、私に「手」と「足」と「頭」をくっつけて、抱きついてきます。「これで30分充電完了」といって終わります。私は身体も大きい息子がそうしてくると、つつい「早く終わってよ」と少し嫌がっていましたが、今日のお話を伺って、これからも「ぎゅう！」とだっこをしてやろうと思います。

## ★子どもへの“怒り”を鎮めた“抱っこ”

怒らない子育てをしたいと思います。しかし、1週間に1回のペースで娘のわがままに対して怒りのコントロールができなくなり、言い過ぎてしまいます。講演のあった日も家で、娘が何かをきっかけで憎まれ口をたたき、あげくに弟を叩きました。私も怒りの感情が湧いてきましたが、講演での先生の話の思いだし、とりあえず娘を抱き上げてぎゅっと抱きしめました。すると、娘の表情が一瞬のうちに和らぎました。と同時に自分の高ぶっていた感情も不思議に落ち着きました。抱っこするだけで、こんなに気持ちが楽になるのかと新しい発見でした。

## ★子どもと「一緒に」が大切なことに気付きました

私の子どもは言葉の発達が遅く「集団生活をする中で、いろんな刺激を受けて、早くおしゃべりできるのではないか」と期待して、未満児さんのクラスから入園したものの、期待した程の成果はみられませんでした。現在は幼稚園とは別に発達支援センターに通い始めようかという所です。幼稚園や発達支援センターに頼るだけではなく、家庭で何かできることはないかと考え、子どもが興味を持つことは積極的にやらせてはいるのですが、アイデアが思い浮かばなくなっていて、悩んでいるときに今回の講演を聞きました。皿回しは、思いの外楽しくて童心に返った感じがしました。「これを子どもと一緒にやれたら楽しいだろうな」と思いました。「子どもと一緒に親子で遊ぶ…というのは子どもにももの凄く刺激になるのではないか？」そう考えさせられた講演会でした。

後日、子どもと公園に行った時に、一緒にブランコに乗りました。最初、1人で乗っていても楽しそうにしていたのですが、「ママも」と私が隣のブランコに乗ると凄く嬉しそうな顔をしました。それを見て、やっぱり“一緒に！”というのは大切なんだなと思いました。今までは、外で遊んでいる時は見ているだけ、アパートに住んでいることもあってなるべく静かにしていないと…子どもと遊ぶ機会が少なかったのかなと、思いました。今後は私も楽しく遊べるものを探して、『子どもと一緒に遊ぶ』を増やして行きます。

親子遊びワーク  
ショップの様子  
(あかちゃん返りしてみる!!)



「あそび支援」こそ、今求められていると思う。

### ◇やうじ

※一年前から親向けの「遊びのワークショップ付き講演」は、講演は60分間、その後は子どもと一緒に「親子遊びのレッスン（じゃれつきだっこ遊び、工作、皿回しなど）」を行っている。これは好評だったため、現在はこのような形式で、保護者向け講演を行うことにしている。

こんな簡単な「だっこ」や「あそび」（皿回しやオモチャ）で家族が元気で幸せになれることを日本の多くの人々は知らない。私は、歯痒くてたまらなくなることもある。子育て支援といえば財政支援か育児環境支援（待機児童対策や諸々の新システム）が主なるものと考えられている。お金や制度や施設改善も大切だ。しかし、私は子どもが育つ家庭や乳幼児施設での「親子あそび」支援という「分野」を早急につくり出していく必要があると思う。あまりお金がかからず、すぐにできる。また、特別な支援の必要な子どもでもできる。